

## 道場建設にあたって

平成30年7月20日

北海道大学相撲部主将 上仲祐樹

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

道場建設委員会の皆さまにおかれましては、相撲部道場建設にご賛同いただき誠に御礼申し上げます。

さて、当部では2010年の発足以来、札幌市所有の札幌市中央体育館に併設されている土俵を今日まで使用させて頂いております。

この間、大学関係者の皆様、札幌市関係者の皆様のご理解の下、毎年全国大会において好成績を収める組織へと成長したことにつきましては、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

中央体育館は、耐震性能や設備の老朽化の進行等から、現施設を維持することが困難となりつつあるほか、各種競技大会の大規模化等、多様化するニーズに応えることが難しくなっている状況を踏まえ、2019年に閉館予定となっております。

これにより、新体育館開館までの間当部は活動場所を失う見込みとなっております。また新体育館の建設予定地は北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業地となっており、大学構内からの移動（特に冬）に時間を要する様相を呈しております。

現在、当部では部員が17名在籍しており、旧帝国大学相撲部において、ひいては国公立大学相撲部において最大の部員数を誇っております。

一方で、学内に土俵が存在しない旧帝国大学は当部だけである状況であります。

また、中央体育館は使用時間が21時までとなっており、大学から離れた土地に土俵がある関係から、空き時間に稽古をすることが出来ず、5時限終了後の稽古開始となっている現状であります。

そのため、時間の制約の関係から一人一人が十分に満足のいく稽古が積めておらず、歯がゆい思いを募らせております。

そこでこの度、師範の細谷先生や近藤名誉教授、顧問の坪田教授のご協力を得て土俵作りに着手した次第であります。

以上のことも踏まえ、当部では、「相撲部は地域に根差した活動を行い、地元住民や学生が相撲を楽しめる環境を整える準備を進めたい」「国籍を問わず学生が集い、日本の伝統文化に触れ、多様な国際文化を受け入れ交流し繋がる“場”が相撲道場」と考えております。

学内道場は、『フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視』を理念とする本学の象徴（シンボル）となり、更には学内道場を起点に『学生の賑わい』が生まれ、その賑わいが施設周辺に留まらず、他の運動部はもとより、北海道大学の活性化に繋がるとともにスポーツや研究をはじめとする文化水準の向上に大きな役割を果たし、必ずや『世界水準の大学 北海道大学』の実現に寄与するものと確信しています。

最後に、当部は、大学をはじめ多くのご支援を賜りながらで創設10年目を迎えております。北海道唯一の大学相撲部である北海道大学相撲部は、相撲を通じて多くの人々と感動をわかちあい、地域スポーツ文化の発展に寄与していると自負しております。そして、大学の活性化、地域の方々の文化水準の向上に、今後も、大いに存在感を発揮して参りたいと存じます。

今後50年、100年、さらにはその先まで、北海道大学で『大学の誇り』となる存在となり続け、『学生が誇りを持ち、他の学生や部活動、他の大学から目指される魅力ある団体であること』を当部の使命とし、誠心誠意、努力して参ります。

是非とも『伝統文化によって学生と世界を繋ぐ 北海道大学相撲部』が実現できますよう、ご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

敬具